

圖書館書籍標準目錄

昭和十二年後期分

文部省編

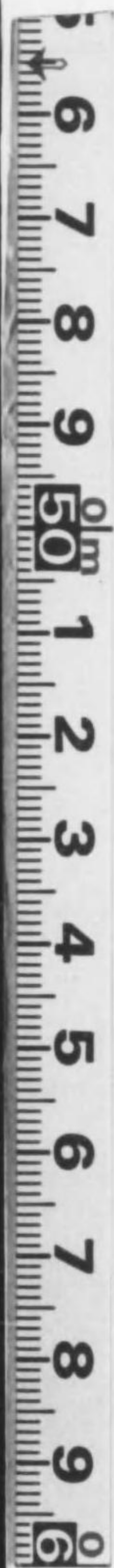
317

58

317-58



1200501372648



始





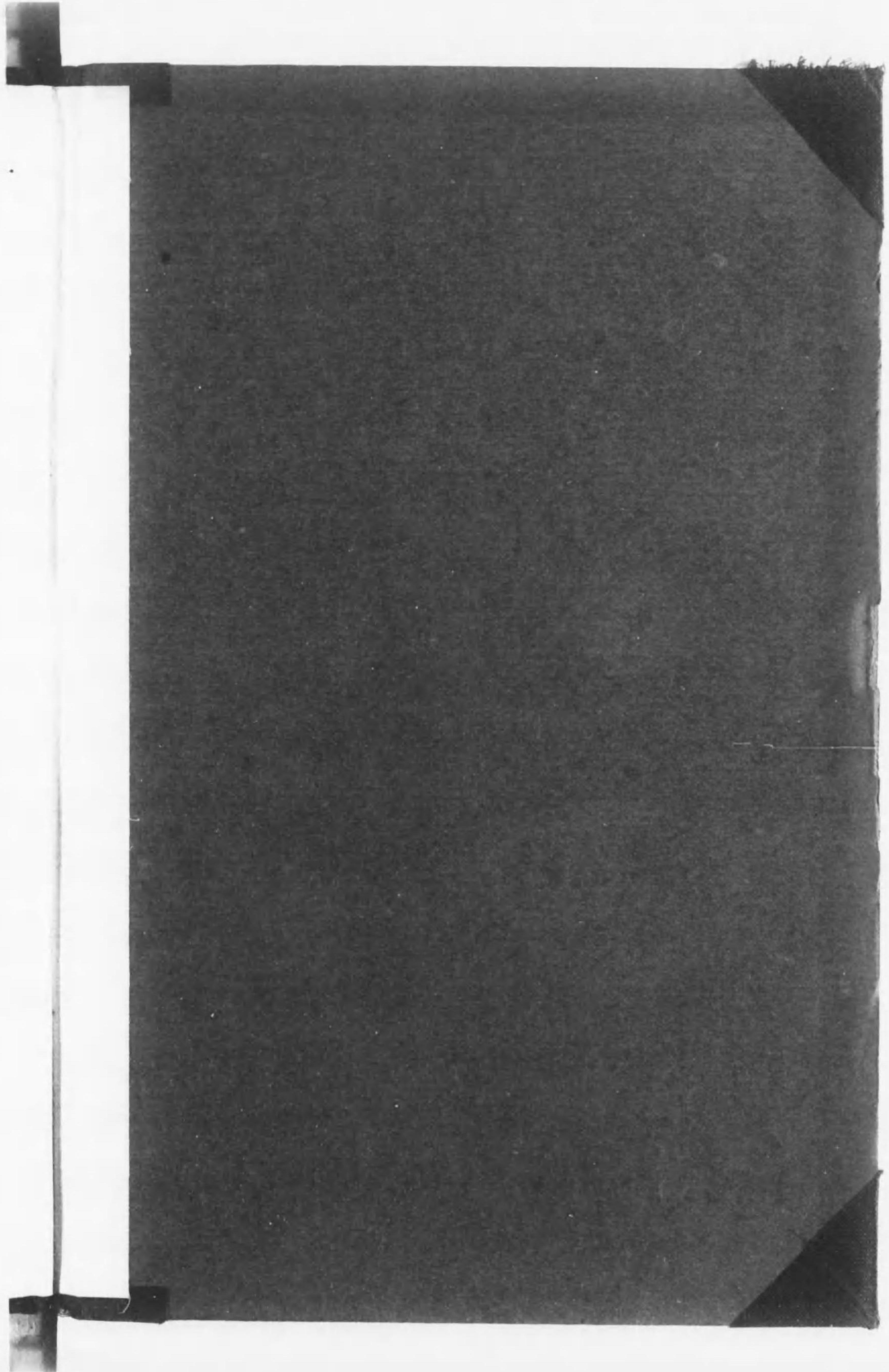
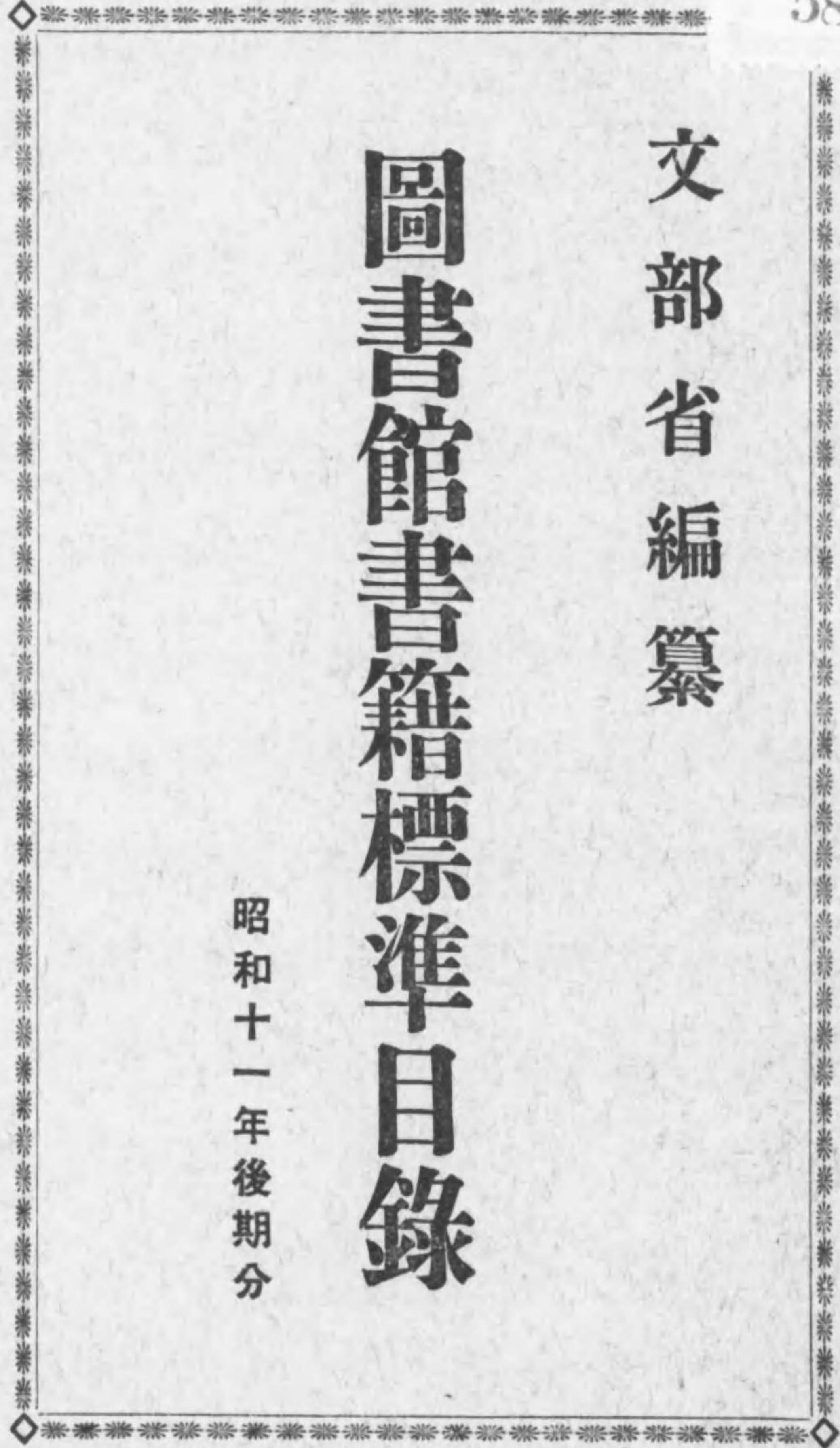
317

58

文部省編纂

圖書館書籍標準目錄

昭和十一年後期分





文部省編纂



圖書館書籍標準目錄

昭和十一年後期分

同省  
寄贈本





317  
58

### 例 言

- 一、本目錄ハ昭和十一年七月以降十二月末日迄ニ發行セラレシ新刊書中、普通圖書館ニ備付クベキ書籍三六六部四四九冊價格約一千圓ヲ採擇セルモノニシテ、圖書購入ノ參考ニ供スルモノナリ。
- 但、前號ニ漏レタルモノニシテ尙必要ト認メタルモノハ期間經過後ト雖モ採擇スルコトアルベシ。
- 一、書名ニ●印ヲ附シタルモノハ文部省ノ推薦ニ係ル圖書トス。
- 一、發行地東京ナルトキハ記載ヲ略セリ。

昭和十二年九月

文部省社會教育局



圖書館書籍標準目錄

目次

第一	一般書類	一
第二	神書、宗教	六
第三	哲學	九
第四	教育	一四
第五	文學	一六
第六	語學	二六
第七	歷史	二七
第八	傳記	三〇
第九	地誌、紀行	三二
第十	政治	三四
第十一	法律	三六



目次

第十二	財政、經濟	……………	三七
第十三	社會	……………	三九
第十四	統計	……………	四〇
第十五	數學	……………	四〇
第十六	理學	……………	四〇
第十七	醫學	……………	四二
第十八	工學	……………	四三
第十九	美術、諸藝	……………	四五
第二十	兵事	……………	四九
第二十一	産業、家政	……………	五一
第二十二	少年書類	……………	五五

二

圖書館書籍標準目錄

昭和十一年後期分

第一 一般書類

明日之日 本

鶴見三三著

千倉書房 四六列 五二三頁 一、五〇

著者は國際聯盟保健委員會及び公衆衛生國際事務局委員會の本邦委員であり渡歐七回、最初巴里に四年在留、その後毎年歐洲へ往復してゐるが、その間の見聞を基調とせる隨筆集。世界大戰の回顧、國際聯盟の變遷、世界に於ける思想の傾向、現時の國際政局、日本の將來等の諸篇を收む。

鷗外全集

木下杢太郎等編

岩波書店 四六列 各一、五〇

第四卷 小説 第三

第六卷 史傳 第一

第七卷 同 第二

第一三卷 評論 第二

第一四卷 同 第三

第一七卷 棕馬通信

學窓雜記

小泉信三著

岩波書店 四六列 三四一頁 二、〇〇

最近二年あまりの中に各方面に執筆されたものを集めたものである。福澤翁に關するもの、著者専門の經濟學に關する所感の類が比較的多いが、又讀書に關するもの、旅に關するものなども一二篇收められてある。



隨筆

氣紛れ日記

内田魯庵著

昭一、六 双 雅房 四六判 四一六頁 二、五〇

逆

に

井上吉次郎著

昭一、九 京都・人文書院 特小判 二五六頁 一、五〇

國民百科大辭典

第一〇、一一卷

富山房百科辭典編纂部

昭一、八、一二 富山房 四六倍判(兼約價)各五、〇〇

珊

瑚樹

小牧健夫著

昭一、九 白水社 四六判 二七八頁 一、八〇

人

口億

下村宏著

昭一、九 第一書房 四六判 五二六頁 一、八〇

新聞經營研究

刀彌館正雄著

昭一、一一 三省堂 菊判 六七四頁 五、〇〇

隨筆

長岡半太郎著

昭一、一一 改造社 四六判 六六五頁 二、七〇

隨筆と云つてもすべて科學者の立場から書かれたもので、中には相當専門的な研究もある。殆ど全卷の三分の一に及ぶ「傳記・憶ひ出」の項の下に記された歐米の科學者の小傳は、傳せらるゝものゝ學說の發展を巧に記してさすが科學者の執筆と首肯せしめる。古風な文語體のものが相當收められてあるが、之は明治時代の執筆にかゝるものを併せ收めた故である。

聲 前 句 後

永井榮藏著

昭一、一〇 京都・立命館出版部 四六判 四五四頁 一、九〇

清 談 錄

伊近衛文麿著

昭一、八 千倉書房 四六判 二八七頁 一、二〇

世界大思想全集

春秋社編

昭一、七一、二 同 社 四六判 各一、〇〇

草 野 集

安倍能成著

昭一、九 岩波書店 四六判 四九九頁 二、二〇

それからそれへ

釋瓢齋(永井榮藏)著

第一 一般書類



「俗つれづれ」「飄齋隨筆集」に次ぐ著者の隨筆集。書名は一篇の名。著者は大阪朝日論説委員。平易な讀物である。

大 辭典 第二三二六卷 平凡社編 昭一、八二二 同 四六判 (預約價) 各五、〇〇

第二三卷 ホーミシン 第二四卷 ミスーヤマトホ 昭一、八二二 同 四六判

第二五卷 ヤマトマーレン 第二六卷 ローン、索引 昭一、八二二 同 四六判

大地は揺ぐ 大澤一六著 昭一、九 サイレン社 四六判 三一六頁 一、五〇

法律を中心とした隨筆集。平易な敘述である。著者は辯護士。

旅と讀書と 木村毅著 昭一、一一 双雅房 四六判 二九〇頁 一、五〇

外遊に取材した興味本位の隨筆と明治文學に關するもの及び自傳を収めてゐる。

竹風醉筆 登張信一郎(竹風)著 昭一、八 南光社 四六判 一七五頁 一、三〇

隨筆集である。著者は獨逸語並に獨逸文學の専門家であるので、中に一二篇その方面に關するものもある。

寺田寅彦全集 文學篇第一、安倍能成等編 五、六、九卷 昭一、九一二 岩波書店 四六判 各一、五〇

第一卷 隨筆 第一 昭一、九一二 岩波書店 四六判

第五卷 同 第五 昭一、九一二 岩波書店 四六判

第六卷 短章 昭一、九一二 岩波書店 四六判

第九卷 物理學序説、翻譯 昭一、九一二 岩波書店 四六判

と見こむ見 杉村楚人冠著 昭一、九 日本評論社 四六判 三四〇頁 一、九〇

昭和三年より同十年に至る間に發表された紀行を収めてゐる。

人間不滅 木村善之著 昭一、一〇 第一書房 四六判 四一二頁 一、五〇

この著者としては最初の隨筆集とのことである。文學、宗教殊に佛教、教育、史傳等可也多方面に亘つて居り、雑誌に掲載されたもの、放送されたもの等で、修養的な香りがする。

初臺雜記 三宅雄二郎著 昭一、一一 帝都日々新聞社 四六判 四四八頁 二、〇〇

百數十の短章を集めたもので主として社會評論である。多く帝都日々新聞に執筆されたものらしく思はれる。

涯てしなき道程 田部重治著 昭一、一一 第一書房 四六判 三四六頁 一、五〇

「心の行方を追うて」に次ぐ著者の隨筆集で、人生及び自然に對する著者の深い觀照の世界から生れ出たものである。著者の得意とする登山記も數篇收められてゐる。稍程度の高い讀物である。

人 犬墨 下島勳著 昭一、八 竹村書房 四六判 三三七頁 二、〇〇

著者が從來發表された隨筆を収めたもので、芥川龍之介その他の交友録、俳人井月の研究等である。著者は醫師であり、俳句、書にて有名である。

人 ひとむかし 石川欣一著 昭一、一一 京都・人文書院 四六判 三五〇頁 二、〇〇

十年ひとむかしで昭和二年より最近に至る間に執筆された隨筆集で、米國、英國在留中のもの、登山記等を收む。著者は大毎調査部長。平易な讀物である。

楓萩集 入澤達吉著 昭一、八 岩波書店 四六判 六〇三頁 二、六〇

第一 一般書類 五



偏

光鏡

辻 二郎著

「雲莊隨筆」以後に發表された隨想、史傳、紀行等にラヂオや日本醫學會に於ける演說等を加へたものである。「西洋拜見」に次ぐ著者の隨筆集で、歐米紀行を収めた「續西洋拜見」、山、演藝等を語る「窓の外」及び著者の専門である科學に取材せる「遍光鏡」の三部分よりなる。著者は理化學研究所員、工學博士。

本朝書籍目録考證

和田 英 松著

圖書の總目録中最も古きものである本朝書籍目録について書誌學的に考證されたものである。純學術的のもので一般性はない。

木

芙蓉

森 於 兔著

著者の第三隨筆集。解剖學を基調としたもの、父鵬外に關するものが大部分を占めてゐる。著者は臺北帝大教授醫學博士。

も

めん隨筆

森田た 文著

女流隨筆家として知られる著者の第一隨筆集である。平易な讀物。

抄選 モンテーニユ隨想錄

關根 秀 雄 譯著

昭和十年關根氏が翻譯された「モンテーニユ隨想錄」三卷中より「最も現代日本人に讀んで欲しいもの」を選抄したものである。巻頭に「モンテーニユの根本思想」といふ解説があり、容易にモンテーニユの思想について知ることが出来る。

第二 神書・宗教

教行信證講話

大須賀秀道著

親鸞上人の「教行信證」を平易に解説したもので、昭和十一年六月に「朝の修養」として京都より放送されたものである。

基督教讀本

海老名 禪 正著

専ら青年を對象として執筆されたもので、その爲に著者は「未だ全く青年期を過ぎて居らない」ところの著者の次男氏の意見を徴して共著者の一人としてゐる。専ら基督教の史的背景を記述してその具體的表現に力を用ひてゐる。記述は極めて平易である。

宗教的生活者

増谷 文 雄著

佛教、基督教、在俗を問はず、明治以後に生れたる宗教的生活者二十四人を傳し、その言行を説いてゐる。新島襄、新渡戸稻造、安部磯雄、山岡鐵舟等各方面より選ばれてゐる。敘述は平易である。

信仰生活の書

宮崎 安右衛門 著

二十年に亘る信仰生活に生きる著者の感想集である。

信ずる力

高嶋 米 峰著

放送講演並にその他の講演の速記を編輯したものである。主なものをかゝれば「聖徳太子の御生涯」「日本文化の淵源」「佛教は復興するか」「新女大學に現はれたる福澤先生の女性觀」等である。

人生のゆくへ

金子 大 榮著

著者の個人雜誌「佛座」に掲載された感想集である。何れも「母上様」と云ふ書出しの下に「在郷の母にさゝぐる爲に」とのせられた文集である。佛教を通しての人生觀であり感想集であることは云ふ迄もない。



親鸞聖語讀本

寺田彌吉著

昭二、七 第一書房 四六判 五七〇頁 一、八〇

聖書

加藤一夫著

聖書をそのまゝ理解することは甚だ困難であり、その福音を何人にも容易に傳へんがためには、その思想を平易に書き換へる必要があると云ふ主張の下に、聖書を基礎としてイエスの言葉と生活を記したものである。

青年の佛教讀本

淺野研眞著

平易に佛教の教義を解説したもので讀本風に三十三課に分けてある。中には宗教的隨筆に類するものもある。附録として十七條憲法の全文を収めてゐる。平易な敘述。

佛教大辭典

望月信亨編

第五卷 ニーワ 別卷 索引 昭二、八、一一 同辭典發行所 四六倍判 第五卷八〇〇 別卷六、〇〇

佛教の日本的展開

佐藤得二著

日本佛教史を概説すると同時に、親鸞、道元、日蓮の三宗祖の人格及教格の上に日本的なものを見出さんとしたもの。著者が朝鮮水原高等農林學校の修身科の教材として數年間に亘り講述したものを蒐録したものである。

法然上人の選擇集

井川定慶著

法然上人が九條兼實公の懇望に依つて撰述されたと云ふ釋尊一代説法の要領を平易に述べた選擇本願念佛集の講解で、昨秋「朝の修養講座」として放送されたものに新たに釋義を附して出版されたものである。

欠



# 欠

昭一、七 刀江書院 四六判 一九五頁 一、〇〇  
スキスの心理學者ピアジェの著「兒童の道德判斷(一九三二年)に盛られた學説を紹介したもので、實例を多く用ひて平易に解説せんとしたものである。少々程度の高い研究書である。著者は法政大學講師。

## 子供の道德觀

ピアジェはスキスの心理學者であり又教育學者であるが、その研究方法は佛蘭西のデュルケイムに近く、多分に社會學的である。本書では子供の道德的判斷(道德的行動や道德的感情にまで立入つて居ない)を主なる骨子としてゐる。そしてその道德的判斷を「子供の遊戯」と云ふ一つの社會生活の中に臨床的實驗を試みて明かにしようとしたものである。尙本書はピアジェの原著 *Le jugement moral chez l'enfant* の譯であるが、逐次全譯ではなく、翻譯しつゝ編述したものである。前掲の「子供の道德」は本書を更に平易に短縮したものである。

ジャン・ピアジェ著  
竹田浩一郎、福田静志共譯

昭一、一〇 東苑書房 四六判 七〇九頁 四、〇〇

## 社會教育概論

小尾範治著

昭一、七 大日本圖書株式會社 四六判 三二七頁 一、〇〇  
小冊子であるがよく要をつくしてゐる。著者は長年社會教育の實際に當られた人であることは今更申す迄もない

## 育ての心

倉橋惣三著

昭一、一二 刀江書院 四六判 三九二頁 一、五〇  
「自ら育つものを育てせやうとする心。それが育ての心である。世にこんな楽しい心があらうか。それは明るい世界である。温い世界である。育つものと育てるものとが、互の結びつきに於て相樂しんでゐる心である。(中略)しかも、この眞情が最も深く動くのは親である。次いで幼き子等の教育者である。(序より)「こんな意味で子供達と母達とに接しながら、その實際と實踐のまゝに即して書かれた實感の書が本書である。短かい幾つかの文章の集まりであるが、いづれも兒童教育に關する實感の書である。

## 圖書館史

和田萬吉著

昭一、一二 芸草會 菊列 三七九頁 三、〇〇  
故和田萬吉博士が圖書館講習所に於て講義せられたものである。古代より最近世に至る西洋圖書館史で、邦語書としては未だ類書を見ないものである。



愛の母と子

村上 寛著 昭一、一一 大阪・文友堂 四六判 三三八頁 一、〇〇  
前著「母とこころ」「まごころ」と同様に、母性愛を主題とした十五の實話を集めたものである。感激に充ちた軽い讀物である。

母の書

霜田 静志著 昭一、七 刀江書院 四六判 三二九頁 一、二〇  
若き婦人の爲に書かれたものである。娘の時代から若妻としての婦人、舅姑の下に嫁としての婦人、やがて若き母としての婦人、子供が嬰兒から幼児、小學生、更に成長して息子、娘と稱し得る時代までの母としての心組みを兒童研究家の立場から記したものである。多くの若き婦人に訴ふるところがあると思ふ。

若き友への手紙

野上 彌生子著 昭一、一二 刀江書院 三五判 一七二頁 五〇  
「子供の研究と教育叢書」の第八編として刊行されたものであるが勿論分賣してゐる。「小學生の母へ」「若い女教師へ」「農村の母と子に」と云つた題目の十一篇から成つてゐる。著者は人間觀察にはすぐれた眼をもつてゐる作家、わけても子弟の成長教養にはなみなならぬ注意と關心を示してゐることは、この他の諸作を通じてよく現はれてゐる。

若き母への手紙

シニテ、イケル 尾高 豊作 編著 昭一、一〇 刀江書院 四六判 二七一頁 一、二〇  
子供の生活の觀察、それに對する若き母の態度を手紙の形式で述べたものである。極めて細かい點に迄及んで居るのに感心する。文章の合間々々に簡單な兒童教育論が織り込まれてゐるが勿論平易なものである。使用された例話は翻譯であるから何れも西洋のことであるのは當然であるが、子供と云ふ點で洋の東西を超越してゐる。

第五 文學

愛情

林 芙美子著 昭一、一一 改造社 菊判 三三八頁 二、五〇

遺産

水上 瀧太郎著 昭一、一二 中央公論社 四六判 五二八頁 二、〇〇  
昭和四年以後に發表せる八篇を収めた著者の創作集。著者は三田文學派の作家で、好んで動人生活に取材し、堅實な描寫を以て有名である。

有頂天

内田 百閒著 昭一、七 中央公論社 四六判 四〇四頁 二、〇〇

空穂隨筆

窪田 空穂著 昭一、一一 章華社 四六判 三六二頁 二、〇〇  
著者の郷里の農村に取材したもの、富士五湖、槍岳等の紀行、及び著者の専攻である短歌に關するものを收む。早大教授で同時に歌人。歌論を除けば平易な讀物である。

英文學史

竹友 藻風著 昭一、九 川瀬日進堂 菊判 六一〇頁 五、〇〇  
古代より十七世紀に至る英文學史。關西大學に於ける講義の參考書として記述されたものであり、全く専門的なものである。

英文學點描

平田 禿木著 昭一、九 信正社 四六判 三六三頁 二、二〇  
既刊「英文學印象記」を改題し、更に新篇を増補したもので、英文學に關する評論、隨筆を收めてゐる。英文學に關心をもつ讀者向のものである。



新修 繪入淨瑠璃史

水谷不倒著 昭一、一二 太洋社 菊判 四一〇頁 三、二〇  
丹祿本、金平本、細字繪入本、六段本等の古版繪入本の古淨瑠璃研究である。特殊な研究であるが各々に梗概を略記し平易な記述に依つてゐる。

王朝和歌集の研究

松田武夫著 昭一、一〇 巖松堂 菊判 二七八頁 二、七〇  
王朝時代の八代集、私家集及び歌合の研究である。和歌集の史的展開の形態、成立年代及び成立事情並に註釋書の各點より論じたものである。著者は陸軍士官學校教官。

感動と批評

本多顯章著 昭一、七 作品社 菊判 二四七頁 一、七〇  
英文學を中心とした評論及び一般文學に關する隨筆を收む。英文學に關心をもつ讀者向。

近世文學の研究

藤村博士功績記念會編 昭一、一一 至文堂 菊判 七〇一頁 五、〇〇  
藤村博士功績記念會編 昭一、一一 至文堂 菊判 七〇一頁 五、〇〇

國文學と日本精神

尾崎士郎著 昭一、七 新潮社 四六判 三四四頁 一、八〇  
共に藤村作博士の遺曆を記念して友人門下生に依つて編纂された論文集である。執筆者百七氏は少數の、博士と親交ある友人の外はすべて門生であつて、内容は前者は江戸文學並に明治文學に關するもののみ、後者は日本精神、國文學並に國語學一般、上古より近古に至る國文學に關するものである。

空想部落

吉田絃二郎著 昭一、八 改造社 四六判 三一四頁 九〇

草に臥して

最近に發表された文學的感想集である。

句日記

高濱虛子著 昭一、一一 改造社 四六判 五八六頁 二、五〇  
昭和五年より同十年に至る間の句作を收めてゐる。

ゲテ全集

改造社編 昭一、七一二 同 社 四六判 各一、八〇  
第一三卷 戯曲集上 (成瀬無極等譯)  
第一四卷 同下 (同 等譯)  
第一八卷 伊太利紀行 下巻 他一篇 (相良守峯譯)  
第一九卷 滯佛陣中記 他四篇 (小牧健夫等譯)  
第二三卷 年代記 (奥津彦重譯)  
第三〇卷 書簡及日記 第二册 (木村護治譯)

現代女流短歌の鑑賞

淵脇義雄著 昭一、一〇 厚生閣 四六判 三〇六頁 一、八〇  
まづ短歌の鑑賞上の一般知識及び現代女流歌壇の各流派について述べ、次に與謝野晶子以下十八閨秀歌人の作品をあげ解説したもの。平易な敘述である。

コシヤマイン記

鶴田知也著 昭一、一〇 改造社 四六判 三〇三頁 一、五〇  
文藝春秋社の芥川賞を獲たる小説。アイヌ族の若き一酋長の生涯を北海道の大自然を背景として描寫せる作品である。

歌集 椎の木

佐佐木信綱著 昭一、五 新鶴社 四六判 一三五頁 一、五〇  
シエイクスピア襍記 本多顯章著 昭一、九 作品社 四六判 一三四頁 一、二〇



岩波の世界文學講座のために書かれた「シエイクスピアと世界文學」外シエイクスピアに関する研究を収めたもの。専門的なものである。著者は法政大學教授。

新古今時代

風巻景次郎著

新古今篇、作家篇、文獻篇の三部に分けて新古今集を研究したもの。専門的なものである。著者は東京音楽學校講師。

眞實一路

山本有三著

雑誌主婦之友に一箇年に亘り連載されたものである。著者の最も得意とする少年の世界を描いたもので、母の愛に餓えて次第に素直な童心を失ひつゝある少年と、之をめぐる父親と姉と母親との苦惱を一編の主流とするものである。

身邊の書

荻原井泉水著

著者の第七隨筆集である。

註頭新葉和歌集

品村上忠順補註

吉野朝時代後醍醐天皇の皇子宗良親王に依つて撰ばれた新葉集に頭註を加へたものである。佐々木信綱博士の序によれば新葉集には古來註解の書が乏しく、尾州名古屋の勤王家村上忠順の標註はその中で最も著名なものであるとのことである。本書は村上忠順の標註に更に品村太吉翁の補註したものである。

神話傳説の支那

松村武雄著

支那の神話傳説をその典籍より集録し約三百篇を収めたもの。各々の物語の終りには典據となつた支那文獻の名を挙げたのが本書の特色である。支那を理解する一つの鍵となることを著者は希望してゐる。著者は神話傳説研究家として著名である。

年鑑明治文學

柳田泉著

政治篇、文學篇、人物篇、叢話篇に分たれてゐる。諸雜誌に發表されたもの五十數篇を蒐録したもので、書誌學的考證によるものが多い。

生活の窓ひらく

新居格著

第一書房が最近刊行してゐる文學讀本、人生讀本の形式により月別に配列編纂された著者の文集で、隨筆家として知られた著者の全貌を知ることが出来る。

靜夜思

井伏鱒二著

文學的隨筆集。平易な讀物である。

世界文藝大辭典

吉江喬松編

千字文を註釋したもので、武林孫の參註によつてゐる。

千字文詳解

西有慧觀著

千字文を註釋したもので、武林孫の參註によつてゐる。

漱石全集

同全集刊行會編

第三卷 草枕、二十十日、野分  
第六卷 門、彼岸過迄  
第一二卷 文學評論  
第一四卷 詩歌俳句及初期の文章 附印譜  
第一五卷 日記及斷片  
第一六卷 書簡集  
第五卷 文學



雙面神

岸田國士著 昭一、一二 創元社 四六判 四三二頁 一、九〇

續々人生劇場

尾崎士郎著 昭一、一二 竹村書房 四六判 四五三頁 一、三〇

大過渡期

小茅田嶽夫譯 昭一、八 第一書房 四六判 四四〇頁 一、五〇

短歌管見

松村英一著 昭一、七 京都・人文書院 四六判 二九五頁 二、〇〇

短歌の鑑賞法

高田浪吉著 昭一、九 古今書院 四六判 三一三頁 一、五〇

天正女合戦

海音寺潮五郎著 昭一、八 春秋社 四六判 四六一頁 一、五〇

獨逸浪漫主義

茅野蕭々著 昭一、九 三省堂 菊列 三五三頁 三、八〇

獨逸文學に於ける浪漫主義の思想と作品とを論じたもの。慶應義塾大學に於ける講義を増補したもので、専門的な研究である。

徳富蘆花

檢討と追想 蘆花 會編 昭一、一〇 岩波書店 四六判 四三五頁 二、〇〇

故人と交渉のあつた七十七氏の徳富蘆花追憶の文を集めたものである。作家であり思索人であつた蘆花の全貌を色々の角度から見る事が出来る。

渡佛日記

高濱虚子著 昭一、八 改造社 四六判 五四三頁 二、〇〇

日本古典物語

前田 晃著 昭一、一二 千倉書房 四六判 三七五頁 一、五〇

記紀二典と傳説として古事記、日本書紀、風土記、漢詩文集として懷風藻、凌雲集他三典、和歌集として萬葉、古今他四典、説話物語として靈異記、三寶繪詞他五典、小説物語として竹取、宇津保他五典、自傳物語として伊勢、蜻蛉、和泉式部日記、日記紀行として土佐、紫式部他四典、隨筆として枕草紙、方丈記、徒然草、歴史物語として榮華、大鏡他六典、軍記物語として保元、平治他五典、その他歌謡、謡曲、狂言に分たれその各々に簡単な説明を附したものである。どの様な時代にどの様な文學が現はれたかを大體知ることが出来る程度のものである。

日本文學全史

佐佐木信綱等著 卷三、六、七 東京堂 菊列 各 二、五〇

卷二 上代文學史 下卷 (佐々木信綱著)

卷六 室町文學史 (吉澤 義則著)

卷七 江戸文學史 上卷 (高野 辰之著)

日本文學の世界的地位

勝本清一郎著 昭一、一〇 協和書院 四六判 三五八頁 一、五〇

世界的見地から扱はれた日本文學の評論集であり、從て民族文化、藝術の國民的形態等に觸れてゐる。その他わが文壇に關する時論、國字國語問題を論じたものもある。著者は日本ペン俱樂部主事。



日本文學評論史 第一、二卷 久松潜一著

第一卷 古代中世篇(七二四頁) 第二卷 近世最近世篇(七八〇頁)  
昭一、一〇 至 文 堂 菊 判 各 六、〇〇  
右は大正十三年より昭和二年迄東京帝國大學に於て「文學評論史」として講義せられたものを整理補訂して出版したものである。専門的研究であることは云ふ迄もない。尙文學評論史に關する論稿は別の體系のもとに整理し第一、二卷の索引、圖版もまとめて第三卷として近く發表さるゝ由。

文學の周圍 谷川徹三著

昭一、一一 岩波書店 四六判 四五四頁 二、〇〇  
文學評論集であるが、文學藝術を通じて著者の文化觀を絞つたものである。稍程度の高いものである。

文學附近 鈴木信太郎著

昭一、一〇 白水社 四六判 三〇八頁 二、〇〇  
フランス文學を中心とした著者の隨筆集。藏書家として有名なる著者の書齋、書誌に關するものも收められてゐる。著者は東京帝大助教授。

平明書屋歌話 尾山篤二郎著

昭一、九 書房 四六判 二八三頁 一、三〇  
短歌に關する隨筆集。西行、黑人を初めとして現代の歌壇にまで觸れてゐる。

平野の人々 和田傳著

昭一、八 砂子屋書房 四六判 三二一頁 二、〇〇  
貧しい農民の姿を如實に描いた短篇集。著者は終始一貫して農村を描いてゐることによつて知られてゐる。

ポドラシイの傳記 (古代波蘭傳説) マリア・カステルスカ著 亮譯

昭一、一〇 昭森社 四六判 一二三頁 一、〇〇  
ポーランドの一地方ポドラシイに傳はる傳説を散文詩風に綴つたものである。

煩惱人一茶 相馬御風著

昭一、一一 實業之日本社 四六判 三〇四頁 一、五〇  
四十年に近い漂泊の生活から、郷里信濃の柏原に歸來した五十二歳の一茶が、肉親との相剋の内に煩惱と運命と戦ひつゝ生涯を終るまでを創作風に描いたもの。著者は一茶、良寛の研究者である。平易な讀物。

街の風景 エルマー・ライヌ著 杉木一喬譯

昭一、八 健文社 四六判 二〇八頁 一、〇〇  
近代都市の機械文明と功利主義とに壓迫される小市民を描いた戯曲「地下鐵」「街の風景」の二篇を收む。原作者はアメリカ現代作家。

瞼の母 (戯曲集) 長谷川伸著

昭一、七 新小説社 四六判 三三二頁 一、五〇  
第六、七、一一 武田祐吉等編 樂浪書院 四六判 各二、〇〇

萬葉集總釋 志賀直哉著

昭一、一一 中央公論社 菊判 二七四頁 二、六〇  
白樺派出身の作家としてわが文壇に重きをなす著者の短篇集。久しい沈黙の後に發表された近作數篇に舊作を添えてゐる。書名はその一篇の名。

萬曆赤繪 吉澤義則編

昭一、九 帝國教育會出版部 菊判 三、八〇  
源氏物語古註 (源親行著)

未刊國文古註釋大系 第一冊

源氏物語釋 (藤原伊行著) 第一冊  
原中最秘鈔 (源親行著) 第一冊  
源氏物語古註 (源親行著) 第一冊  
源氏一滴集 (正徹著) 第一冊  
種玉篇次抄 (宗祇著) 第一冊



源氏物語不審抄出 (同著)

花屋抄

源氏物語蜀山鈔

源氏物語ひとりごち (伊勢貞丈著)

宮本武藏 水、火の巻 吉川英治著

昭二、一〇 大日本雄辯會講談社 四六判 五六八頁

一、六〇

躍進日本の歌

北原白秋著

昭一、一二 アル 三五判 四五九頁

「青年日本の歌」に次ぐ著者の第二國民歌論集で、皇軍をはじめ、官廳、都市、團體、學校、新聞社等の依頼により創作せるもの百四十五篇を収む。

妖精 園

野上彌生子著

昭一、一二 中央公論社

四六判 三八五頁

著者の最近發表した短篇六を収めてゐる。著者は女流作家では思想、教養に秀れ、特に子女の生長と教養とに取材した作品を以て知られてゐる。

連歌法式綱要

山田孝一 共編

昭一、一二 岩波書店 菊判 三四二頁

連歌の法式に關する書を集めたものである。専門的な研究書である。

### 第六語學

國語政策

保科孝一著

昭一、九 刀江書院 菊判 二〇八頁

國語科學講座に執筆されたものを増補訂正したもの。複雑、不規則なわが國語、國字を如何にして健全に發達せしむべきか等、國語政策の重要性に對する著者の主張を述べたものである。比較的平易な敘述。

國語法論攷

松尾捨次郎著

昭一、九 文藝學社 菊判 九四〇頁

著者は國語法(所謂文法をこの著者は特に語法と云つてゐる)の研究態度を三種に分ち、その一を我國生粹の研究態度、その二を漢語法參酌の態度、その三を西洋の語學に基礎をおく態度としてゐるが、勿論我國生粹の態度を根幹とし他の二態度を補助參考とすべきを述べてゐる。著者は國學院大學教授。

新制ローマ字綴り方解説書

菊澤季生著

昭一、一一 東宛書房 菊判 九七頁

臨時ローマ字調査會の審議決定に基く、國定ローマ字綴り方を中心として、更に從來の日本式並びにヘボン式綴りをも併せて詳細に解説したものである。單語の綴り方、文章の書方等其他實用上諸方面に必要な知識を提供してゐる。

日本文法史

小林好日著

昭二、九 刀江書院 菊判 三〇一頁

著者は東北帝大教授。

文字行脚

後藤朝太郎著

昭一、一一 知進社 菊判 六四三頁

支那の文字を色々の方面から、例へば文字の歴史、文字の趣味、書道、文藝上から見た文學、金石學上から見た文字等々廣い範圍に亘つて記述してあるが、之は單に語學としての文字に關して述べたのではなく、文字を通して複雑な支那の社會を紹介したものである。

### 第七歴史

江戸の實話

三田村鳶魚著

昭一、七 政教社 四六判 四〇八頁

二、〇〇



江戸に取材した實話讀物集である。

近世日本國民史

第五二、五三

徳富猪一郎著

友社

四六判

各二、五〇

第五二 文久元治の時局  
第五三 元治甲子禁門の役

新國史論叢

大森金五郎著

吉川弘文館

四六判 五〇八頁

二、〇〇

國史論文並に講演筆記十五篇を収めたものである。尙卷末附録として重野安禪先生を始め幕末から維新前後にかけ一般に學術の普及せざりし時代に奮闘せられた六先人栗田寛、中村正直、黒川眞頼、小中村清矩、大國隆正、加藤弘之の學者傳が加へられてある。

明治編年史

第二、二五卷(完) 同史編纂會編

昭一、九

財政經濟學會

四六倍判 各七、〇〇

第一四卷 日韓合邦期 (明治四二年至同四五年)  
第一五卷 全卷索引

世界歴史大系

第二、三、四、五卷(完)

平凡社編

昭一、五九

同社

各二、八〇

第二四卷 世界歴史大年表 (鈴木俊等編)  
第二四卷B 總索引  
第二五卷 史籍解題 (遠藤元男等編)

世界歴史大年表

鈴木俊等編著

昭一、九

平凡社

菊判 四二八頁 五、〇〇

世界歴史大系の第二四卷として刊行されたものと同一物を別に單行したものである。

日本書紀新講上

飯田季治著

昭一、一〇 明文社 菊判 四五二頁 三、九〇  
原文を掲げ、次にその訓譯、終りに語釋を附したるものである。著者は日本書紀通釋七十卷の著者飯田武郷氏の令嗣の由である。

武家政治の研究

新見吉治著

昭一、一〇

文館

菊判 三三〇頁 三、〇〇

史學研究叢書の第一卷として出版されたものであるが分賣してゐる。著者は廣島文理科大学教授文學博士。日本に於ける武家政治の歴史(原文はドイツ語で著者は之によつて學位を得られた。舟越康壽氏が邦譯したものである)、「鎌倉室町時代の小作制度」「名主の研究」の三論文が収められてある。

萬物流轉

平泉澄著

昭一、一一

至文堂

菊判 二五七頁 二、〇〇

前編「萬物流轉」後編「不易の道」から成つてゐる。前編に於て長柄の橋、不破の關についての史的の記述があるのみで、他は萬物は流轉すれどもそこに不易の道があると云ふ國史の一貫性について述べたものである。著者の史觀延いては著者の人生觀の表現とも云へやう。

水戸烈公の國防と反射爐

關一著

昭一、一〇

誠文堂新光社

四六判 二九五頁 一、五〇

水戸烈公がその憂國の熱誠より護國の巨砲を鑄造せんとして建設せる水戸反射爐の由來と、その壊滅に至る経路とを敘したもの。なほ佐賀、鹿兒島、蕪山の反射爐及び北墨夷見聞録を添えてゐる。著者は茨城縣湊町商業學校教諭。平易な敘述である。

明治史講話

渡邊幾治郎著

昭一、一一

吉川弘文館

菊判 三七三頁 二、五〇

明治天皇を中心とし奉つて講述された明治史で、東京中央放送局よりの放送講演を増補したものである。著者は長年 明治天皇御紀の編纂の事に當られた。



### 第八傳記

乃木將軍

服部純雄著

の育英

昭一、一〇 刀江書院 四六判 四一五頁 一、八〇  
將軍は明治四十年九月十日より四十五年七月末日までまる四箇年間學習院の院長をして居られた。本書はこの四箇年間に於ける教育者としての將軍を描いたもので、著者はこの四年間を學習院學生として親しく將軍の薫陶を受けた人である。

教育人名大辭典

尾高豊作編

昭一、一〇 刀江書院 菊判 五八一頁 四、五〇  
國定教科書に現はれる一千有餘の人物(東洋西洋を含めて)について、名號、系統、事蹟、逸話、美談などを記述したもので、簡單ではあるが網羅的で初等教育に従事する人々には参考になる。

姓氏家系大辭典

太田亮著

第三卷 (チーワ)

昭一、一二 同刊行會 四六倍判 一二、〇〇

大日本女姓名辭書

高群逸枝著

附したるもの。事蹟には各々出典を明記してある。附録として歴朝帝母后妃一覽、女院一覽、歴代齋宮表、歴代齋院表を添えてある。

昭一、一〇 厚生閣 菊判 六二三頁 五、八〇

武田耕雲齋詳傳

大内地山著

(一名、水戸藩幕末史)

昭一、九 水戸學精神作興會 菊判 上七四二頁 二冊 八、〇〇

英雄天才史傳

鶴見祐輔著

チスレリー

水戸藩幕末の志士武田耕雲齋の傳記で、當時の同藩の錯雜せる事情を背景として描いたものである。

陶庵

昭一、八 大日本雄辯會講談社 四六判 五三四頁 一、五〇  
十九世紀英國の政治家として著名なビーコンスフィールド伯チスレリーの傳記である。平易な讀物であるが、又著者が相當チスレリーに打ち込んでゐる熱意の程が見えてゐる。

日本系譜綜覽

日置昌一著

政治家としてではなく、趣味人としてみた西園寺公を傳したもので、書翰集及公の佛譯になる古今集名づけて蜻蛉集を添えてゐる。平易な讀物。

昭一、一〇 改造社 菊判 九八四頁 一〇、〇〇

廣田弘毅傳

澤田謙著

皇室、皇族御系圖を始めとして凡ゆる部門に亘つて系圖を網羅したものである。

昭一、一一 歴代總理大臣傳記刊行會 四六判 二九五頁 七、五

明治維新と女性

布村安弘著

通俗的なものである。

昭一、一二 立命館出版部 菊判 二九六頁 二、五〇

明治天皇と輔弼の人々

渡邊幾治郎著

維新史の表に裏に活躍した女性二百餘名についてその事蹟を明かにしたものである。著者は長野女子専門學校教授。

昭一、一〇 千倉書房 四六判 三六三頁 一、五〇

山田長政

三木榮著

明治天皇を中心とし奉つて、所謂明治の元勳名臣と稱せらるゝ人々について記述したものである。明治天皇の御聖徳を顯揚し奉らうとする著者の意圖がよく現はれてゐる。

昭一、一二 古今書院 四六判 三〇六頁 二、〇〇

著者は在退既に二十餘年、現に暹羅王室美術院の技師である。山田長政に關する諸説を博く我邦並に暹羅の文獻



より涉獵して本書一巻をものされたので比較的類書も少い。  
 ●吉田松陰 玖村敏雄著 昭一、一二 岩波書店 四六判 三九七頁 一、五〇  
 吉田松陰傳は世にその数少なくはないが、本書は近來最も特色鮮かな著述である。著者は廣島高等學校教授で岩波版松陰全集十巻の編纂に關係した人である。本書も同全集第一巻の始めに載せた傳記を訂正増補したものである。主として志士としての松陰よりも教育家としての松陰に重きを置いてある。

### 第九 地誌・紀行

アルピニストの手記

小島烏水著 昭一、八 書物展望社 菊判 三一二頁 二、八〇  
 日本に於ける新しい登山の開拓者たる著者の山に關する隨筆集である。

永遠への思慕

佐野勝也著 昭一、七 第一書房 四六判 二三〇頁 一、五〇  
 昭和五、六年に互り歐洲に旅行した際の印象記であるが、單なる見聞録ではなく、「使徒パウロの神秘主義」の著者たる氏が心を傾けてゐる宗教問題を通じて觀察されたものである。著者は九州帝大教授、文學博士。

最新支那要覽

東亞研究會編 昭一、九 東亞研究會 四六判 五四九頁 二、〇〇  
 年鑑風の編輯方法により政治、外交、國防軍事、教育等の十八部門に分ち、資料を主としたものである。

山頂漫歩

關口泰著 昭一、一〇 書物展望社 菊判 二七三頁 二、三〇  
 高山から高山へと云ふ所謂山岳書ではない。赤城、尾瀬、伊豆半島等比較的低山の趣味的な紀行で、その間に國學者奈佐勝阜の山吹日記（天明六年標名赤城登山紀行）の解題や、古來からの山の名歌名文の解説、山に關する

支

繪畫の話等を織り交ぜた全體として上品な山の趣味書である。  
 那 山本實彦著 昭一、九 改造社 四六判 四二九頁 二、〇〇  
 著者は改造社々長。蒙古、滿鮮に次ぐ支那の紀行。平易な讀物である。

地理學小辭典

古今書院編輯部編 昭一、八 古今書院 四六判 三七九頁 二、八〇  
 自然地理、人文地理の兩部門に互り、術語の説明をしたものである。排列は日本式ローマ字のアルファベット順に據つてゐる。

ざらいぶ・うえい

隈部一雄著 昭一、一〇 山海堂 四六判 二三七頁 一、八〇  
 著者が昭和十年より十一年にかけての海外旅行記で、その専攻より歐洲に於ける自動車及び自動車旅行の記録を主としたものである。著者は東京帝大助教教授、工學博士。平易な讀物である。

南洋

安藤盛著 昭一、八 昭森社 四六判 三一五頁 一、五〇  
 南洋諸島の自然と土人とを興味深い筆致で述べたもの。平易な讀物である。

南洋讀本

上巻(島嶼篇) 東亞經濟調查局編 昭一、九 改造社 菊判 二六四頁 一、五〇  
 南洋の一般事情を簡明に記述したもの。上巻は關領東印度、サラワク、英領北ボルネオ、フィリッピンを扱つてゐる。平易な敘述。

滿支このごろ

長與善郎著 昭一、八 岡倉書房 四六判 三一頁 二、三〇  
 昭和十年、十一年の二回、滿支に旅行した著者の見聞録。所謂紀行文と異り作家、思索人としての著者の觀察がある。平易な敘述。



滿洲から北支へ

神田正雄著 昭一、八 海外社 四六判 三七〇頁 一、五〇  
著者は成都にて中國人の教育にあたること數年、更に某新聞の北平特派員として在平十餘年に及んでゐるが、本書はその滿洲觀、支那觀である。滿洲、北支の主要人物との會見記も含まれてゐる。

目あきの垣覗き

松波仁一郎著 昭一、九 大日本雄辯會講談社 四六判 五二九頁 一、五〇  
朝鮮、滿洲、西比利亞、露西亞、獨逸、和蘭、白耳義、佛蘭西、瑞西、英吉利、伊太利と云ふ工合に分つて其地に於ける感想を語つたものである。著者は人も知る海法の大家であるが、本書にはそんな専門的な處は少しもない。

第十 政治

正改 恩給法精解 増訂版

上原秋三著 昭一、七 岩波書店 菊判 九四八頁 五、〇〇  
昭和八年十二月末に發行されたものに、その後新しく生じた問題、訂正變更を要する點を考慮して約百頁内外に亘つて増補訂正を加へたものである。

●初歩 國際讀本

平野等著 昭一、八 東白堂 四六判 三九四頁 一、四〇  
ベルサイユ條約締結後に於ける歐洲勢力の二分對立より最近の西班牙内亂に至る間の國際情勢を平易に解説したものである。著者は雜誌「世界知識」主幹。

新興日本の將來 (新興日本叢書)

芦田均著 昭一、八 日本青年館 四六判 二八〇頁 九〇  
第一に現下のわが國の世相を批判し、次に建國の精神と民族精神を説き、わが産業と貿易を論じ、終りにわが民

族の未來に示唆を與へんとしたものである。著者は法學博士、多年外交官、現在衆議員議員。平易な敘述である。

臺灣統治概史

高濱三郎著 昭一、九 新行社 四六判 三九八頁 二、五〇  
沿革、武官總督時代、文官總督時代の三部に分けて四十一年に亘る歴代總督の臺灣統治行政史を述べたもの。稍敘述は程度が高い。

南進論

室伏高信著 昭一、七 日本評論社 四六判 三三一頁 一、〇〇  
佐藤忠雄著 貴島外交研究室編 昭一、一、二 登龍閣 四六判 二五二頁 二、〇〇

●日本外交論

日本外交政策の沿革、現状、進路を論じ、國際關係並に情勢を述べたものである。著者は在米大使館二等書記官であつたが昭和一〇年夏死去せられた。

日本政治史大綱

今中次麿著 昭一、一〇 南郷社 菊判 四九五頁 三、〇〇  
政治史は一般文化史、經濟史、社會史と密な關係にあるのであるが割合に出版されたものが少い。本書は九州帝國大學に於ける講義を基礎としたものである。

日本都市年鑑

東京市政調査會編 昭一、一〇 同會 菊判 四、五〇  
矢内原忠雄著 昭一、六 岩波書店 四六判 三七〇頁 一、八〇

民族と平和

民族主義の運動の中には、思想的社會的一面と、政治的軍事的一面とがあり、その發現形態が世界平和の上にならぬ影響を及ぼすかの意義を明らかにせんとしたものである。著者は東京帝大經濟學部教授。植民政策專攻。





### 第十一 法律

#### 一 法學者の嘆息

栗生武夫著

昭一、一〇 弘文堂 四六判 二七九頁 一、五〇

序に「法律を學んで法律に安住すること能はず、政治を憂へて政治を動かすこと能はず、病んで死すること能はざる一個の學徒が折にふれ、時に應じて洩らし來つた感慨の小録である」とある。收むるところ法律論、政治論、論壇時評、社會評論五十篇である。

#### 國際法學界の七巨星

寺田四郎著

昭一、一二 立命館出版部 菊判 三八四頁 三、五〇

雜誌「國際法外交雜誌」に連續掲載されたもので、古來歐洲に於ける國際法界の七巨星と云はれてゐるゲンテイリス、グロイテイウス、セルツン、ゾーチ、プーフエンドルフ、バインケルスフーク、ヴァツテルに就いて略歴、著作、學說等に亘つて紹介したものである。著者は法學博士。

#### 債權總論

中卷之二、三 勝本正晃著

昭一、七 巖松堂 菊判 各四、三〇

この二冊は中卷之一に引きつゞき債權の效力に關する部分を取扱つてゐる。専門的な扱ひ方である。

#### 法學協奏曲

中川善之助著

昭一、一〇 河出書店 四六判 三四七頁 一、五〇

「凡ゆるリズムとメロディが、法學といふ樂器によつて表現され、その法學的に表現せられる音樂を社會といふオーケストラが伴奏してゐる」と云ふ意味で法學協奏曲と名づけたと云ふ。前著「妻妾論」に含まれなかつた諸論稿を收めたものである。すべて法制に關するもので何れも隨筆風に平易に書かれてゐる。

#### 法窓餘滴

牧野菊之助著

昭一、七 張社 四六判 三四四頁 二、〇〇

司法官としての四十年の生活の回顧を中心に、之に若干の隨筆を加へたものである。

#### 法の基本問題

恒藤恭著

昭一、一〇 岩波書店 菊判 四七八頁 三、二〇

#### 法律學辭典

(第四卷)

末弘毅太郎共編 昭一、八 岩波書店 四六倍判 七、〇〇

#### 民法研究

第三 勝本正晃著

昭一、一二 巖松堂 菊判 五、五〇

第二卷發表以後即ち昭和九年より十一年中頃までの執筆にかゝる論稿を集めたものである。専門的の記述である

#### 民法講義

第三 我妻榮著

昭一、一二 岩波書店 菊判 二、三〇

第三 擔保物權法

### 第十二 財政・經濟

#### 各國經濟統制の實態

北澤新次郎著

昭一、一二 千倉書房 菊判 五六四頁 二、五〇

米國、英國、フランス、イタリー、ドイツの經濟統制の實態について述べたもので、就中米國については特に詳細である。英佛獨伊の四國については主として貿易政策を中心として記述されてゐる。

#### 經濟學史要論上

堀經夫著

昭一、一〇 弘文堂 菊判 三九六頁 二、八〇

昭和六年以降八年迄に分冊出版された同書名のもの、第一分冊に當るものである。重商主義、十七、八世紀の諸經濟學說、重農主義、正統學派のスマイス、マルサス、リカード等の項目が掲げられてゐる。



經濟の立場から

下田 將美 著 昭一、九 昭 森 社 四六判 三一頁 二、〇〇  
隨筆を通して經濟知識を興へたいといふ主張の下に執筆されたものを收む。一貫して經濟の立場から物を見てゐる。從て幾分心を入れて讀まなくてはならぬ。著者は大阪毎日營業局長。

國家經濟と公債經濟

安藤 春夫 著 昭一、八 同 文 館 四六判 三四九頁 二、七〇  
近時の財政現象に於ける傾向の一つとして、公債收入の壓倒的增加を看過することは出来ない。著者はこの一點に眼を注ぎ公債經濟の視角から國家經濟を把握せんと試みて本書を世に問ふてゐる。専門的研究である。

支那貨幣・金融發達史

廣 畑 茂 著 昭一、一 叢 文 閣 菊判 四二八頁 三、〇〇  
支那各地で通用してゐる貨幣は極めて多種多様であり、併も何等統一されたる制度下に發行されたものでない。需要供給の多寡により日々刻々其價格が變動する。著者は對支貿易戰は商品賣買戰であると同時に爲替相場戰であるとなし、對支貿易從事者にその正確なる知識を提供せんとしたものである。著者は支那在住十二年。對支貿易に多年の經驗者である。

支那財政經濟一斑

吉田 虎雄 著 昭一、九 學 藝 社 菊判 三三五頁 三、〇〇  
支那の財政經濟事情を扱つた研究及評論集。なほ日支關係の時事問題を論じたもの數篇をも添へてゐる。専門的な敘述。

統制經濟讀本

大阪毎日・東京日日新聞社 編輯 昭一、一 一 元 社 四六判 四八〇頁 二、〇〇  
五部に分たれてゐる。第一部では統制經濟の意義を探ねると共に歐米に於ける統制經濟の實狀を概観し、第二部では我が國に於ける經濟統制化の本質を述べ、第三部第四部ではその實狀乃至是非を批判してゐる。第五部はわが國民經濟自立の基本問題とも云ふ可き原料政策の検討に當てゝある。

外 經濟問題の解説

大阪毎日・東京日日新聞社 編輯 昭一、一、六 一 元 社 四六判 四二〇頁 一、八〇  
各國の政治・經濟・財政・産業政策・貿易政策等の各分野に亘りて現下の情勢を述べたものである。

日本經濟發展の様相

沖 中 恒 幸 著 昭一、九 協同出版社 四六判 五〇〇頁 二、三〇  
最近日本經濟の變動を物價、金融、貿易、生産、分配の各分野に亘りて理論的説明を加へたものである。

第十三 社 會

江戸のすがた

齋藤 隆 三 著 昭一、一、二 雄 山 閣 菊判 二四九頁 二、五〇  
安永天明期の江戸の世情風俗を述べたものである。嘗て「日本風俗史講座」中に收めたものを増補せるもの。從て單なる讀物ではない。著者は文學博士。

訂増 社會事業綱要

生江 孝之 著 昭一、七 巖 松 堂 菊判 五二三頁 三、八〇  
初版は大正十二年に發行せられたが、昭和二年再訂、今回更に三訂されたものである。

新 道 徳 讀 本

菊 池 寛 著 昭一、一、二 創 元 社 四六判 三一〇頁 一、五〇  
父子、男女、結婚等に關する道徳をはじめとして、日常生活、又は新聞、法律、教育等の社會各方面に亘る實踐道徳を説いたものである。平易な讀物。

世界と世界人

堀口 九萬一 著 昭一、一〇 第一書房 四六判 三七一頁 一、五〇



第十三 社會 第十四 統計 第十五 數學 第十六 理學

四〇

嘗てブラジル大使であつた著者の隨筆集。ブラジルを中心としたものが多い。又外國人の見た日本及日本國民性等に關するものもあり、著者が多年在外中に得られた見聞を基調としてゐる。平易な讀物である。

續 日本盲人史

中山 太郎著

昭一、八 昭和書房 菊判 二二六頁 二、五〇

山の神とチコゼ

柳田 國男著

昭一、八 寧樂書院 菊判 一六六頁 一、二〇

チコゼを民俗學の立場より取扱つたものであり、從て民族學に關心ある讀者向のもの。

第十四 統計

日本帝國統計摘要

第五〇回

內閣統計局編

昭一、七 東京統計協會 四六倍判

三、七〇

第十五 數學

數值積分法

上卷

日高 孝次著

昭一、七 岩波書店 菊判 二二二頁 二、三〇

函數の積分の數値を計算する方法、常微分方程式及積分方程式の數値解法を收む。著者は海洋氣象臺技師、理學博士。全く専門的なものである。

第十六 理學

科學綺談

西村 眞琴著

昭一、一 時潮社 四六判 二四〇頁 一、四〇

日常の我々の生活の間ころがつてゐる好話題、この好話題を取り上げて科學的解釋を與へたものと云ふ。極めて平易通俗な科學讀物である。

科學トビツク

今井 喜孝等著

昭一、一 雄山閣 四六判 四一八頁 二、八〇

農學博士の今井喜孝氏が主として遺傳の方面を、理學士兒玉帶刀氏が化學物理學方面を、理學士森脇大五郎氏が生物學動物學方面を各々分擔執筆した科學隨筆である。大體平易な讀物であるが、中には二三隨筆の域を脱した専門的な研究に近いものもある。

昆蟲讀本

中西 悟堂著

昭一、七 巢林書房 四六判 二五五頁 二、〇〇

小學校高學年から中學初年級へかけての程度で、普通我々の接し得る蝶、蜻蛉、螢、蟬、蜂、蠅等につき主としてその生態觀察を試みたものである。

社會地理學の基礎問題

小原 敬士著

昭一、一 古今書院 菊判 三一六頁 二、八〇

社會地理學と云ふ新しい研究方法について著者は次の様に云つてゐる「地理學も他の學問と同じやうに、やはりそのときどきの人間社會の精神的所産であること、従つて舊來の現象記述的な地理學も、地理學の自然科學化の傾向も、みなそのときどきの社會的要求の反映であること、從來のこれ等の方法では、自然をその社會性と歴史性とに於て把束することを怠つてゐたこと、そして現在若くは今後の地理學、殊に經濟地理學は、この二つの視點から目を逸してはならぬこと等に氣がついた」と。この態度は本書に於て比較的良好に現はれてゐる。記述は稍々専門的である。

隨筆草木志

牧野 富太郎著

昭一、七 南光社 四六判 三六三頁 二、〇〇

著者専門の植物學に關する隨筆である。記述は平易であるが取扱はれてゐる項目の中には相當専門的なものがあ



生命の科學 第一六

小野俊一 著 凡社 菊列 一、三〇

生物學巡禮

小泉 丹著 昭一、一〇 岩波書店 菊列 三六〇頁 二、八〇

進化學巡禮、キヌヅキエー、生物學徒ゲーテ、若きハツクスリー、南歐迴路、動物園の六篇を収めたものである。右の中進化學巡禮と若きハツクスリーとは雑誌「科學」に掲載されたものに増補したもの、南歐迴路、動物園、キヌヅキエーは何れも岩波講座「生物學」に執筆されたものである。

日本の魚類

田中茂 穂著 昭一、一二 大日本圖書株式會社 四六判 三三四頁一、〇〇

どちらかと云へば讀物と云ふよりは辭典風のものである。簡単に正確に科學的知識を得るには便利な著述である。若干の挿繪を除いては圖録は全然ない。

野の鳥の生態

仁部富之助 著 昭一、七 集林書房 四六判 二七八頁 一、五〇

多年に亘る野の鳥の生活の觀察と實驗との結果を、興味深い筆致で描いたもので、挿入寫眞も豊富である。著者は農事試験場陸羽支場に勤務、野鳥の研究は氏の餘技の由である。

本草學論考 第四册

白井光太郎 著 昭一、八 春陽堂 菊列 四、五〇

### 第十七 醫學

醫家先哲肖像集

藤浪剛一 著 昭一、七 刀江書院 四六倍判(一六五圓) 一〇、〇〇

西洋醫學歷史

太田千鶴夫 著 昭一、九 象文閣 四六判 三〇四頁 二、〇〇

僧行基より幕末に至るまでの百六十五人の代表的醫家の肖像集である。西洋古代からの醫學史であるが、大部分は十七世紀以降、殊に十九世紀に入つて詳細を極めてゐるのはこの學問の性質上當然のことである。記述の方法は著名の醫學者を中心に、その業績學說を簡単に述べたものであつて、嚴密に醫學の範圍に限られて居り、文化史的方法にはよつてゐない。

文明と狂想

岡田 強 著 昭一、九 人文書院 四六判 三三三頁 二、〇〇

醫學隨筆である。醫學でも著者は精神病學を専門とする醫學博士である爲、精神病學を通じて世態を隨筆的に觀察記述をしたものであると云へる。

道と自然

永井 潜 著 昭一、一一 人文書院 菊列 四二三頁 四、五〇

主として遺傳の問題、優生の問題を主題とした小論を蒐録したもので、極めて平易通俗に書かれてある。

藥用植物の効用と採集・栽培

森 武 宗 著 昭一、八 文政社 四六判 六二五頁 二、三〇

### 第十八 工學

土木建築工事材料 瀝青乳劑

西川 榮 三 著 昭一、一〇 共立社 菊列 三三五頁 三、八〇

瀝青乳劑は其用途の廣汎なるに拘らず、其發達、日猶進歩がため適當な解説書がない。この點に鑑み著者が其製造及使用する實際上必須なる全知識を與へんとしたもの。専門的叙述である。著者は内務技師。



グライダー・スポーツ

澤 青 鳥 著 昭一、七 大倉書店 四六判 三三七頁 一、六〇  
近年流行のスポーツとしてのグライダーにつき、機體理論、翼理論、氣象學、構築材料、操縦教程、獨逸に於けるグライダー大會記録、グライダーの設計製作法、本邦に於ける歴史等各方面から記述したものである。

航空年鑑

帝國飛行協會編 昭一、一〇 同 會 菊判 三、五〇

圖式靜力學

中根孝治著 昭一、一二 岩波書店 菊判 三六三頁 二、八〇

圖式靜力學 下卷

大野 謙著 昭一、一六 淀屋書店 菊判 四六〇頁 四、〇〇

鑄造法

石川登喜治著 昭一、一七 共立社 菊判 二〇七頁 二、二〇

著者は海軍造機中將、工學博士。専門的なもの。

テレヴィジョン

川原田政太郎共編 昭一、一九 誠文堂新光社 菊判 四八三頁 三、五〇

本書は濱松高工と相並んで本邦テレヴィジョン研究の一方の雄である早稻田大學理工學部の研究である。極めて廣範圍に亘つた記述で、執筆者も同大學に教鞭をとられる十氏の名が掲げられてある。

日本建築史圖錄

天沼俊一著 昭一、一二 京都・星野書店 四六倍判 八、〇〇

日本城郭考

古川重春著 昭一、一〇 巧人社 菊判 六〇七頁 六、五〇

著者は自ら大阪に建築事務所を開設して居る日本建築の實際家。本書は戦史、文化史の考證も相當なされてある

が力點を城郭建築の上に置いた特異な研究書である。現存の天守閣は餘す所なく、又大阪城上野城等の復興天守、その他安土、仙臺、會津、福岡、岸和田等の著名な城址にも及んでゐる。

第十九 美術・諸藝

明日への音楽

須永克己著 昭一、七 名曲堂 菊判 三五二頁 二、〇〇

音楽評論集であり、「樂論」「樂史」等の諸篇を収めてゐる。特に音楽教育、日本音楽の特性を論じたものが含まれてゐるのは注目すべきである。著者は京都帝大出身で音楽美學専攻、これはその遺稿集で、本書には師友による「追悼録」を添へてゐる。音楽に關心を有する讀者向。

オリムピック讀本

鈴木良徳共著 昭一、一〇 學藝社 菊判 五〇一頁 二、〇〇

國際オリムピック競技の組織と内容の解説、日本の参加史及びオリムピック記録集よりなる。終りに第一回大會の記録を添えてゐる。記録を主としたところが特徴である。

オリムピックの書

大日本體育協會編 昭一、一〇 三省堂 四六判 三三七頁 一、五〇

國際オリムピックの沿革、各大會に於ける日本の戦績、次回大會東京開催決定経緯等の諸篇を収む。

オリムピックの知識

野口源三郎著 昭一、一〇 成美堂 四六判 四一〇頁 一、八〇

國際オリムピックに關する全知識を與へんとするもので、古代オリムピアの競技、オリムピア競技の解説、近代オリムピック競技、國際オリムピア競技簡説の四部よりなつてゐる。著者は第七回萬國オリムピック大會の日本チーム主將である。平易な叙述である。

花道

齋藤巢湖著



生花の歴史及び現代各流派の様式に就いて詳細な解説をしたもので、流派に偏せず之を網羅したのは本書の特徴である。嘗て東京農業大學園藝部及び著者の主宰する花卉藝術學院に於ての講義とその他を収めたものである。

観劇五十年

伊 臣 眞 著

昭一、一〇 新 陽 社 菊 判 五二四頁 三、三〇

明治十八年より五十年に亘る著者の観劇の思ひ出を主として歌舞伎、新派劇、新劇の三大潮流の變遷を叙したものである。終りに明治十八年より現在に至る詳細な演劇年表が附してある。著者は實業家出身の劇通。演劇に關心ある讀者向。

近代フランス繪畫思潮論

荒 城 秀 夫 著

昭一、一一 綜合美術研究所 菊 判 一八二頁 二、〇〇

コロの人と藝術、寫實主義の發展、印象主義と其作家、後期印象主義と新印象主義の四篇よりなり、近代フランス繪畫思潮を時代性と社會性、生活と思想・意識との關係、作品のイデオロギーと形式の各見地より全面的究明を試みたもの。稍程度の高いものである。

藝淵耽溺

高 野 辰 之 著

昭一、一二 東 京 堂 四六判 三五四頁 二、五〇

書畫篇、演劇舞踊篇、追憶篇、主張篇に分つてあるが、前二者が本書の大部分である。何れも昭和年間に發表された小篇小品の類である。

現代演劇論

岸 田 國 士 著

昭一、一一 白 水 社 四六判 四七三頁 二、五〇

演劇に關する評論、感想、ノオトの類を集めたもので、そのいづれもがわが演劇文化の向上のために絶えず努力と熱情を傾注してゐる著者の信念を示すものである。演劇本質論、現代演劇の諸問題其他を収めてゐる。演劇に關心ある讀者向。

左團次藝談

市川左團次(二世)著

昭一、一〇 南 光 社 菊 判 二七四頁 二、五〇

殆ど大部分は左團次の自敘傳である。

隨筆ゴルフバツグ

下 村 海 南 著

昭一、一〇 目 黒 書 店 四六判 五二三頁 二、八〇

スポオツ閑談

辰 野 隆 著

昭一、七 昭 森 社 四六判 二五五頁 一、五〇

大部分はスポーツに關する隨筆であるが、旅行、繪畫、音楽に關するものも若干ある。スポーツの中では野球、ゴルフに關するものが多い。文章は例に依つて極めて輕妙である。

世界印刷文化史年表

庄 司 淺 水 著

昭一、一一 フックドム社 菊 判 二四一頁 二、八〇

附 世界重要歴史年表 印刷術發達の歴史を年代別、各國別に敘述したもので、附録として各頁下段に重要歴史年表を併記してゐる。書誌學上の参考書である。

續本朝畫人傳

村 松 梢 風 著

昭一、七 責 文 堂 四六判 四〇三頁 二、五〇

廣業、觀山、百穂、春學の四畫伯の傳記である。附録として著者最近の隨筆を収めてゐる。

釣魚大全

ウオルトン 著

昭一、一〇 國民文庫刊行會 四六判 三三四頁 二、〇〇

十七世紀のイギリスの文人アイザック・ウォルトンの釣に關する隨筆『The Compleat angler, 1653』の全譯である。釣に關する文學としては世界的に著名で、本國のイギリスでは最近でも非常に多くの讀者を有つてゐると云ふ。

陶器大辭典

陶器全集刊行會編

昭一、一二 同 會 四六倍判 一五、〇〇



南畫の描き方

松林桂月著 文堂 四六判 一七九頁 一、八〇

日本繪畫史讀本

岡登貞治著 昭一、九 文堂 四六判 三八一頁 二、〇〇

日本畫と其技法

川合玉堂等著 昭一、一〇 東洋圖書株式会社 菊判 二六三頁 二、五〇

日本スキー發達史

山崎紫峰著 昭一、一一 別冊 文堂 菊判 三八〇頁 三、〇〇

●日本文化私觀

ブルノ・タット著 昭一、一〇 明治書房 四六判 二三八頁 三、〇〇

庭石と岩組

上原敬二著 昭一、八 成美堂 菊判 三二〇頁 二、五〇

能樂談叢

横井春野著 昭一、九 サイレン社 四六判 三八六頁 二、〇〇

表現の日本的特性

金原省吾著 昭一、一〇 古今書院 菊判 四〇〇頁 三、五〇

ファイルハーモニー雜記

近衛秀麿著 昭一、九 日本書莊 菊判 二五六頁 一、五〇

洋樂鑑賞法

湯淺永年著 昭一、一〇 清教社 菊判 三〇六頁 一、五〇

私の引伸

吉川速男著 昭一、七 光社 四六判 三八六頁 二、五〇

第二十 兵事



新興日本の國防 (陸軍篇)

中柴末純著 昭二、一〇 日本青年館 四六判 二五八頁 九〇

新興日本の國防 (海軍篇)

有馬寛著 昭二、一〇 日本青年館 四六判 二七三頁 九〇

上記二冊何れも「新興日本叢書」中の一篇である。青年を対象に執筆されたもので、國防の眞意義を理解せしむることが本書の主なる目的である。

世界兵學史話 (西洋篇)

佐藤堅司著 昭二、七 學而書院 菊判 六五四頁 八、〇〇

軍制、戰法、築城、兵器、戰史等軍事學上の各部門に亘つて記述したもので、本篇は西洋篇である。著者は陸軍士官學校教授。史學專攻。敘述は平易である。

刀談片々

本阿彌光遜著 昭一、八 南光社 四六判 二四三頁 二、二〇

刀劍に關する約二十篇を収めたものである。雜誌に掲載されたものが多い。

文武權の限界と其運用

林彌三吉著 昭二、七 兵書出版社 四六判 一六四頁 七〇

武人の職分を論じその政治外交干與に就いて述べたもので「滿洲問題に就て」隣國としての支那及び「補正成公の事蹟」よりなる。楠公は文武權の限界に於て範を示したものととして取扱はれたのである。著者は陸軍中將。

兵器考

有坂鋁藏著 昭二、二一三 雄山閣 菊判 各三、二〇

兵器武器の全分野に亘つて變遷と得失とを述べたもの。豊富に寫真版が挿入されてゐる。著者は海軍造兵中將、工學博士。稍程度の高い敘述である。

第二十一 産業・家政

紙の知識 (附、人絹)

堀越登吉著 昭一、一〇 産業經濟通信社 四六判 一七七頁 一、二〇

パピラスの昔より二千年餘に亘る紙の歴史と知識を提供せんとしたもので、歴史(内地之部、外國之部)、製造、販賣、製造品種、規格の諸篇よりなる。附録として人絹及其紡績について述べてゐる。著者は「産業經濟」誌主宰者。

間接費の研究

吉田良三著 昭二、七 森山書店 菊判 三三五頁 二、五〇

工企業の經營上最も重視されてゐる原價計算に於て、更に最も複雑困難なる間接費の研究をなしたもので、専門的なものである。著者は東京商大教授、商學博士。

工業經營總論

大河内正敏著 昭一、一〇 千倉書房 菊判 三三一頁 一、八〇

著者の持論である「經營の科學化」を平易に述べたものである。經營の科學化と云ふのは科學的管理法とか産業の合理化とかとは稍々趣を異にするもので、今日並に今後の工業が科學を土臺とする以上、經營そのものに迄科學を取り入れて行かなければならないと云ふのである。

廣告法論

高田源清著 昭二、九 京都・立命館出版部 菊判 四二二頁 三、八〇

著者は高岡高商教授。専門的な研究である。

雜貨染色法 上卷

西田博太郎著 昭一、九 工業圖書株式會社 菊判 三四五頁 三、三〇

織物用纖維の染色に關する書は多いが、本書の如く雜貨原料の染色を扱つたものは珍しい。上卷は植物質類で麥稈、苧田、經木、苧田、蘭草、竹等を扱つてゐる。著者は桐生高等工業學校長、工學博士。



酸・アルカリ及肥料 上巻

庄司 務著 工業圖書株式會社 菊 判 三〇二頁 二、八〇  
酸、アルカリ及肥料工業の全般に亘つて大要を述べたもので、上巻は硫酸、鹽酸、磷酸、ソーダ灰を收む。全く専門的なもの、著者は大日本人造肥料株式會社研究課長。

實用農藝全書 第五一八巻

明文堂編 昭一、七一二 同 堂 小型本 各 一、二〇  
第五卷 養 蠶 (野中幸兵衛著)  
第六卷 桑樹栽培 (岡部康之著)  
第七卷 林 業 (福田次郎著)  
第八卷 畜 産 (美川重夫、後藤新著)

新興商品製造から販賣まで

時事新報經濟部編 昭一、七 指 導 社 四六判 五一六頁 一、五〇  
時事新報の工業欄に連載されたもので、主なる新興工業製品の發生から現勢に至る沿革、製造、販賣の實狀を述べたもの。平易な敘述である。

人造纖維紡績

小岩 隆 道著 昭一、七 工業圖書株式會社 菊 判 三〇八頁 二、九〇  
著者は商工省絹業試験所絹紡工場主任。ステープル・ファイバーの製造及紡績を述べたものである。

製糖及酒精糖

牧野 成 保著 昭一、一〇 工業圖書株式會社 菊 判 一八八頁 一、六〇  
砂糖及酒精兩工業に關する基礎的な知識を述べたもので、實業學校専門教科書として執筆されたものである、著者は東京府立化學工業學校教授。

蔬菜の肥料と施肥方

古谷 春 吉著 昭一、九 泰 文 館 四六判 三〇四頁 一、五〇  
篤農家の秘傳

實用中小商工簿記

松岡元三郎著 昭一、八 同 文 館 四六判 二六四頁 一、五〇  
東京近郊並に阪神地方の蔬菜地及び各地方農事試験場、農學校にて行はれた研究に、東京種苗試験場に於ける著者自身の經驗を加へた蔬菜肥料の研究である。著者は同試験場技師。

内外に於ける羊毛事情

商工省貿易局編 昭一、七 日本羊毛工業會 菊 判 四七七頁 一、二〇  
本邦及海外諸國に於ける羊毛需給の狀況を述べてある。

日本工業發展論

高橋 龜 吉著 昭一、一一 千倉書房 菊 判 四八〇頁 二、〇〇  
三編より成る。第一編「日本工業最近の特質と飛躍の眞因」は昨年米國ヨセミテ國立公園にて開かれた第六回太平洋會議に提出せる調書として執筆せるもの、第二編「最近に於ける日本工業發展の内容」はその後に於て第一編の缺けたるを補へるもので、之は著者監督の下に中村孝俊氏の執筆せるもの、第三編は日本の工業の發展とそ

日本刺繡講話

上村百代著 昭一、一〇 同 文 社 菊 判 一五八頁 三、五〇  
日本刺繡及フランス刺繡に就ての全知識を與へんとしたもの。豊富に挿繪を挿入してある。著者は東京女高師講師である。

日本村落史概説

小野 武 夫著 昭一、七 岩波書店 四六判 四八三頁 二、三〇  
わが農村の發生、組織、生長の歴史を政治史的、社會史的、經濟史的、民俗學史的觀點より述べたもの。著者は農學博士、法政大學教授、農村經濟史の專攻である。

日本庭園史圖鑑

重森 三 玲著 第八、二、三三卷 同 堂 小型本 各 一、二〇  
第二十一 産業・家政



第八卷 江戸時代初期 第一  
 第一一巻 同 初期 第四  
 第一三巻 同 中期 第一  
 第二一巻 明治・大正・昭和時代 第三

日本農業年鑑

昭和十二年版 富民協會編

昭一、二一 大阪・同會

四六判 八〇

農業小辭典

佐藤寛次編

昭一、一一 日本評論社

四六判 一五七七頁 八、〇〇  
 籾にやはり佐藤博士責任編輯の下に「農業大辭典」が刊行され斯界の稱賛を博したが、本書はこの大辭典を聚本として之を要約し更にその後の新事實を採録したものである。

農業年鑑

昭和十一年版 帝國農會編

昭一、二七 同會

菊判

一、二〇

味覺法樂

魚谷常吉著

昭一、二七 秋豐園出版部

四六判 二〇四頁 一、五〇  
 料理と美味について述べたもの。前者「滋味風土記」「四季酒の肴」に次ぐものである。

味噌釀造法

成瀬金太郎著

昭一、八 明文堂

菊判 三八六頁

四、〇〇

明治産業發達史

神長倉眞民

昭一、七 ダイヤモンド社

五四三頁 二、五〇  
 明治初年に於ける産業文化輸入の徑路を明かにすると同時に、當時その輸入移植の事に當つた先人の苦心と努力

とを明かにしたるもの。比較的平易に讀むことが出来る。

メロン栽培

米内山泰介著

昭一、八 明文堂

四六判 二八八頁

一、二五

用實 緬羊の飼ひ方と加工法

月野誠道著

昭一、二二 泰文館

四六判 三〇七頁

一、五〇

蘭の簡易栽培

加藤光治著

昭一、一一 三省堂

四六判 三一二頁

二、五〇

内地で容易に購められるもの、栽培し易いもの、觀賞價值のあるもの、比較的廉價なものと云ふ所に標準を置いた比較的通俗なアマチュア向きのもの。

趣味と 収益 わかさぎ(公魚)

目黒廣記著

昭一、七 大日本水産會

四六判 一五九頁

一、二〇

公魚の生態、養殖、利用等につき平易に説明してある。

第二十二 少年書類

修養

親孝行な少年少女の話

芦谷光久著

昭一、九 金の星社

四六判 一七六頁

五〇



少年少女  
教育讀本

母なればこそ  
水谷まさる著  
昭一、一〇 交 蘭 社 四六判 二〇七頁 九〇

文 學

世界名作選(二) (日本少國民  
文庫第五卷)

山本有三著  
昭一、一二 新潮社 新菊判 三一七頁 一、〇〇

日本名作選 (日本少國民  
文庫第六卷)

山本有三著  
昭一、一七 新潮社 新菊判 三〇二頁 一、〇〇

讀本少年萬葉集

内田義廣共著  
昭一、二一 新潮社 四六判 一七一頁 一、〇〇

子供の  
ための  
ダンテ物語

竹村清譯編  
昭一、一八 新 生 堂 四六判 二〇二頁 一、二〇

童 話

愛のゆりかご (子寶文庫  
第二卷)

安倍季雄著  
昭一、一一 家の教育社 四六判 二四七頁 一、〇〇

いぬはりこ

安倍季雄共編  
昭一、一〇 家の教育社 新菊判 四六六頁 二、五〇

可愛いお手紙 (子寶文庫  
第三卷)

安部季雄著  
昭一、九 家の教育社 四六判 二五二頁 一、〇〇

コグマノコロスケ

吉本三平著  
昭一、一二 大日本雄辯會講談社 四六判 二一〇頁 一、〇〇

甲子さん上太郎さん物語

上澤謙二著  
昭一、七 厚 生 閣 四六判 二五四頁 一、五〇

新漢洲  
童話集

山田健二著  
昭一、九 新 生 堂 四六判 二〇〇頁 九〇

將軍の涙 (子寶文庫  
第六卷)

安部季雄著  
昭一、一二 家の教育社 四六判 二五〇頁 一、〇〇

月夜の滑臺 (童話集)

橋本楠郎著  
昭一、一二 建 設 社 四六判 二二三頁 八〇

童話四年生上、下

樋口紅陽著  
昭一、一一 岡村書店 菊(横本) 各、二五

沖野  
童話讀本 五年生

沖野岩三郎著  
昭一、七 金の星社 四六判 二二八頁 五〇

沖野  
童話讀本 六年生

沖野岩三郎著  
昭一、七 金の星社 四六判 二二四頁 五〇

ドラネコと烏

小川未明著



のらくろ小隊長	昭二、二二	岡村書店	菊判	三六六頁	一、五〇
村の月夜	昭二、二二	大日本雄辯會講談社	四六判	一六〇頁	一、〇〇
仲よし小法師	昭二、二二	文學案内社	新菊判	一七七頁	一、二〇
友愛篇	昭二、二二	高崎童話教育研究會編	新四六判	二〇六頁	、八〇
興國篇	昭二、二二	岡村書店	四六判	二五〇頁	、五〇
立志篇	昭二、二二	大阪・駿々堂	四六判	二二七頁	、五〇
武勇篇	昭二、二二	大阪・駿々堂	四六判	二四七頁	、五〇
滑稽篇	昭二、二二	大阪・駿々堂	四六判	二四二頁	、五〇
千本松ばら	昭二、一〇	安部季雄著	四六判	二二〇頁	一、〇〇

義士 童話

つらぬく忠誠

京都童話研究會編

昭二、二二 文友堂 四六判 三五九頁 一、〇〇

英雄行進曲 出世篇 佐藤紅綠著 昭二、二二 大日本雄辯會講談社 四六判 三三一頁 九〇

火線の三人兵 山中峯太郎著 昭二、二二 誠社 四六判 三七三頁 一、二〇

小公子 (少年少女世界 界名著文庫) 谷崎伸譯編 昭二、二二 金蘭社 四六判 二四四頁 一、〇〇

絶島の日章旗 附名犬 探偵物語 山中峯太郎著 昭二、二二 成社 四六判 三二二頁 九〇

なつかしの故郷 (少年少女世界 文庫第一二編) 宇野浩二著 昭二、二二 小山書店 小型判 二二九頁 五〇

富士に歌ふ 富田常雄著 昭二、二二 盛光社 四六判 三六三頁 九〇

街の少年 (少年世界文庫 第一〇編) 豊島與志雄著 昭二、二二 小山書店 小型判 一三四頁 五〇



歴史

少年國史物語

東京時代

前田

晃著

昭一、九 早稻田大學出版部

菊判 四二六頁

二、五〇

少年大日史

建設

社編

昭一、七 建設社

菊判

各、五〇

第一卷 傳教大師  
第三八卷 高野長英と渡邊華山  
第五二卷 世界大戦  
(勝野隆信著)  
(齋藤斐章著)  
(内藤智秀著)

少年滿洲事變と上海事變

山崎信

敬著

昭一、八 大同館

四六判 三七八頁

二、〇〇

日本人はどれだけの事をして来たか

(日本少國民文庫)

西村真次

著

昭一、一 新潮社

新菊判 三二二頁

一、〇〇

人間はどれだけの事をして来たか

(日本少國民文庫)

恒藤恭

著

昭一、九 新潮社

新菊判 三〇〇頁

一、〇〇

傳記

源九郎義經

(少年世界文庫)

佐藤一英

著

昭一、八 小山書店

小判判 一五〇頁

、五〇

鹽原多助

(少年世界文庫)

富澤有為

男著

昭一、八 小山書店

小判判 一八四頁

、五〇

少年木下藤吉郎

松本浩

記著

昭一、九 大同館

四六判 四一六頁

二、〇〇

少年新田左中將義貞

内山留吉

著

昭一、七 大同館

四六判 四六六頁

二、〇〇

少年頼山陽の生涯

長谷川安一

著

昭一、一〇 大同館

四六判 四五七頁

二、〇〇

ブルターク英雄傳

澤田謙

著

昭一、九 大日本雄辯會講談社

四六判 四三六頁

一、五〇

物語二宮金次郎

(少年少女讀物叢書)

奥平祥一

著

昭一、一〇 春秋社

四六判 二八九頁

一、〇〇

面白くて偉人の話

(六年生)

松本正道

著

昭一、一〇 金の星社

四六判 二〇三頁

、五〇

地理

子供に支那の話

夏目一孝

著

昭一、七 南光社

四六判 二六五頁

一、〇〇



子供に  
きかせる  
蒙古の話

夏目一挙著  
昭和二、七 南光社 四六版 二五一頁 一、〇〇

子供に  
聞せる  
南洋の話

鈴木龍水著  
昭和二、八 南光社 四六判 二四四頁 一、〇〇

新制  
小學生地理の勉強 第六の巻

栗山周一著  
昭和二、八 大同館 四六判 五二二頁 二、五〇

新制  
小學生地理の勉強 外國の部

栗山周一著  
昭和二、二 大同館 四六判 三〇〇頁 一、五〇

探險英雄傳

戸坂潤譯編  
昭和二、二 改造社 四六判 三八四頁 一、七〇

スリピング  
アフリカ探検記

池田宣政著  
昭和二、二 大日本雄辯會講談社 四六判 三七〇頁 一、三〇

理科

昆虫の友フアブル (少年少女  
讀物叢書)

谷寬著  
昭和二、七 春秋社 四六判 一七七頁 一、五〇

動物奇談

大島正滿著  
昭和二、一〇 大日本雄辯會講談社 菊判 二五六頁 一、三〇

トムソン科學物語

松平道夫著  
昭和二、二一三 大都書房 四六判 各一、三〇

第一卷 宇宙、生物、人類の進化  
第二卷 人體機構、動物の驚異  
第三卷 植物の驚異、物理學物語

數學

趣味の數學遊戲

滑徳市著  
昭和二、二二 三友社 四六判 三一六頁 一、二〇

數學物語 (少年少女世界  
文庫第一三卷)

矢野鍵太郎著  
昭和二、二二 小山書店 小製判 一五六頁 一、五〇

運動

少年オリムピック讀本

鈴木良徳著  
昭和二、二二 學藝社 菊判 一九六頁 一、三〇

スポーツミ冒險物語 (日本少國民  
文庫第二卷)

飛田穂洲共編  
昭和二、八 新潮社 新菊判 三三三頁 一、〇〇







第二十二少年書類

フタツのランドセル

講談社の繪本 四十七士

講談社の繪本 乃木大將

横本楠郎著

昭二一、一二 フソウカク 四六判 二〇五頁 一、二〇

昭二一、一二 大日本雄辯會講談社 四六倍判 七七頁 三五

昭二一、一二 大日本雄辯會講談社 四六倍判 七七頁 三五

六六

昭和十二年十月五日印刷  
昭和十二年十月十日發行

著者 文 部 省

東京市京橋區本町一ノ二一

印刷者 小松代浩三

東京市京橋區本町一ノ二一

印刷所 特急印刷社

電話京橋一八八〇番



第二十二 少年書類

フタツのランドセル

講談社の繪本 四十七士

講談社の繪本 乃木大將

横本楠郎著

昭一一、一二 フツウカク 四六判 二〇五頁 一、二〇

昭一一、一二 大日本雄辯會講談社 四六倍判 七七頁 三五

昭一一、一二 大日本雄辯會講談社 四六倍判 七七頁 三五

六六

昭和十二年十月五日印刷  
昭和十二年十月十日發行

著者 文部省

印刷者 東京市京橋區木挽町一ノ二一

小松代浩三

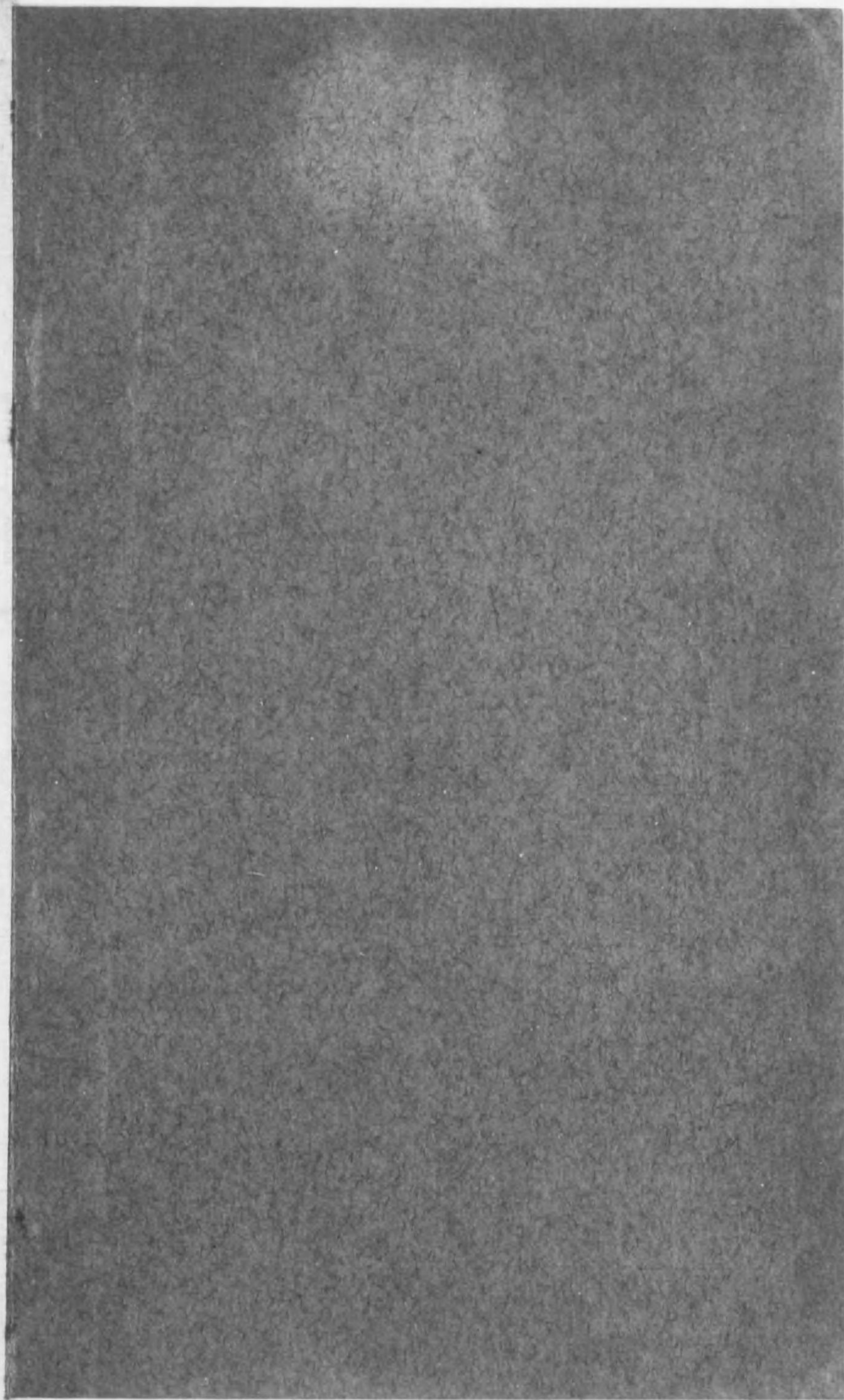
印刷所 東京市京橋區木挽町一ノ二一

特急印刷社

電話京橋一八八〇番



317  
58





終

